
プラン指標の見直し案

1 数値目標(指標)の進捗状況

2 指標の見直しの全体の方向性

- (1) プラスチック削減に向けた目標設定
- (2) 目標達成済又は目標達成間近の指標の上方修正
- (3) 目標の現状維持の指標

数値目標(指標)の進捗状況

分類	目標指標	令和元年度 (2019) 基準年	令和4年度 (2022) 前々年	令和5年度 (2023) 前年	令和6年度 (2024) 最新年	令和12年度 (2030) 目標年	
ごみ量	市受入量	40.9万t	38.0万t	37.2万t	36.5万t	37万t	目標達成
	ごみ焼却量	38.2万t	34.3万t	33.8万t	33.0万t	33万t	目標間近
2 R	レジ袋使用量(家庭)	2,500t	1,200t	1,200t	1,200t	400t	
	ペットボトル排出量(家庭)	3,400t	3,400t	3,400t	3,400t	1,600t	
	使い捨てプラスチック排出量	5.1万t	4.9万t	5.0万t	4.9万t	—	
	食品ロス排出量	6.1万t	5.4万t	5.0万t	4.7万t	4.6万t	目標間近
リニューアブル	バイオプラスチック製容器包装 排出割合(レジ袋)	—	34%	33%	37%	—	
分別・ リサイクル /エネルギー 創出 /適正処理	プラスチックごみ分別実施率(家庭)	46%	50%	47%	48% (速報値)	60%	
	食品廃棄物リサイクル率(事業)	19%	26%	24%	25% (速報値)	36%	
	再生利用率	31%	34%	34%	算定中	39%	
	市最終処分量	5.1万t	4.6万t	4.5万t	4.3万t	4.4万t	目標達成
脱炭素	廃棄物処理に伴う 温室効果ガス排出量	16.1万t (2013年度)	14.6万t	14.0万t	算定中	11.3万t	

指標の見直しの全体の方向性

プラスチック削減に向けた目標設定

- プラスチックの発生抑制に関する指標について、現行の「ペットボトル排出量」や「レジ袋使用量」といった個別品目の目標は維持しつつ、使い捨てプラスチック全体への対策を進めるため、「使い捨てプラスチック排出量」の目標を設定する。

目標の現状維持の指標

- 現状で目標達成には更なる取組が必要な指標（「プラスチックごみ分別実施率」、「食品廃棄物リサイクル率」、「再生利用率」、「廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量」）については、現行目標を維持する。
- 「バイオプラスチック製容器包装割合」の指標については、引き続き、参考指標としてバイオマスプラスチックの導入状況をモニタリングしていく。

目標達成済又は目標達成間近の指標の上方修正

- 「食品ロス排出量」は、国目標を上回る水準に上方修正する。
- 「市受入量」、「ごみ焼却量」、「市最終処分量」は、個別指標を達成した場合のごみ量を基に設定する。

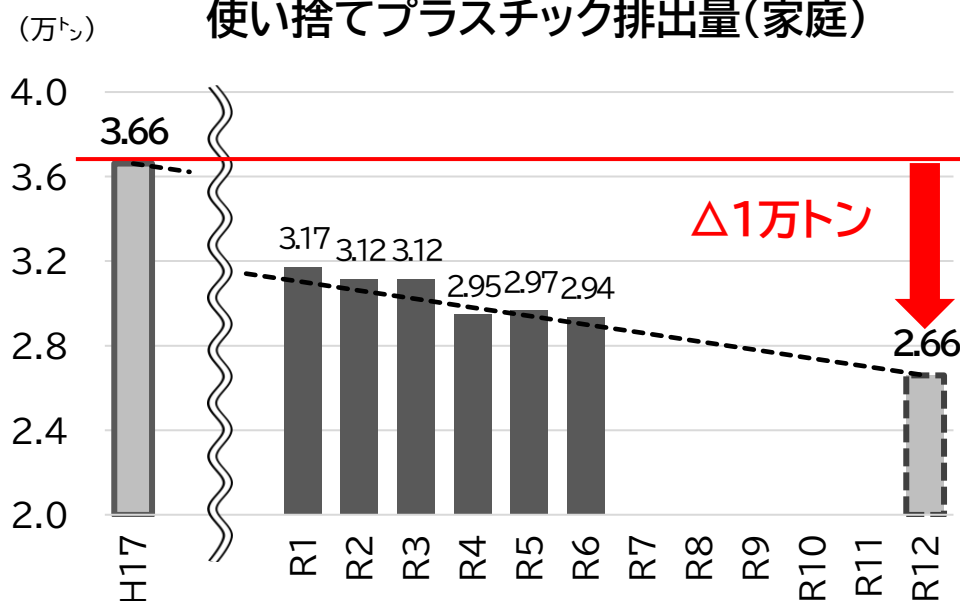
➡ 目標達成に向け、中間見直しの方向性を基に施策強化を図っていく（資料2-1）。

使い捨てプラスチック排出量 ➡ 目標値新規設定

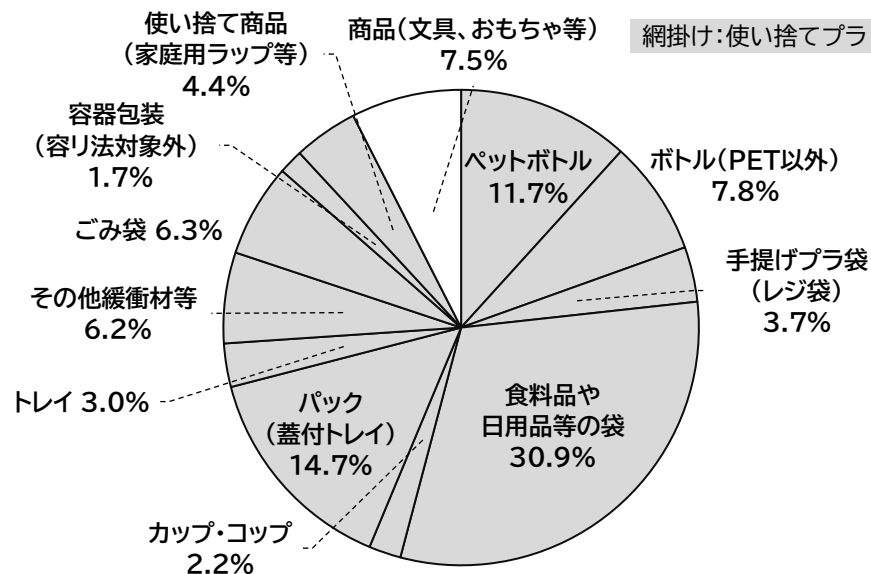
- プラスチック削減に向けた目標設定として、既存の「レジ袋使用量」及び「ペットボトル排出量」の目標は維持。
そのうえで、使い捨てプラスチックのうち、ペットボトルやレジ袋だけではなく、それら以外の容器包装や使い捨てのカトラリーなどの発生抑制対策も進めていくため、使い捨てプラスチック全体の取組効果を確認する「**使い捨てプラスチック排出量**」の目標を新たに設定。
- 2Rの効果を見ていくため家庭系を対象とし、ピーク時(H17)3.66万tから△1万t(△27%)した**2.66万トン**を目標とする。
これは、国の目標※を上回る水準。

※ プラスチック資源循環戦略「2030年までにワンウェイプラスチックの排出量を累積で25%削減」

使い捨てプラスチック排出量(家庭)



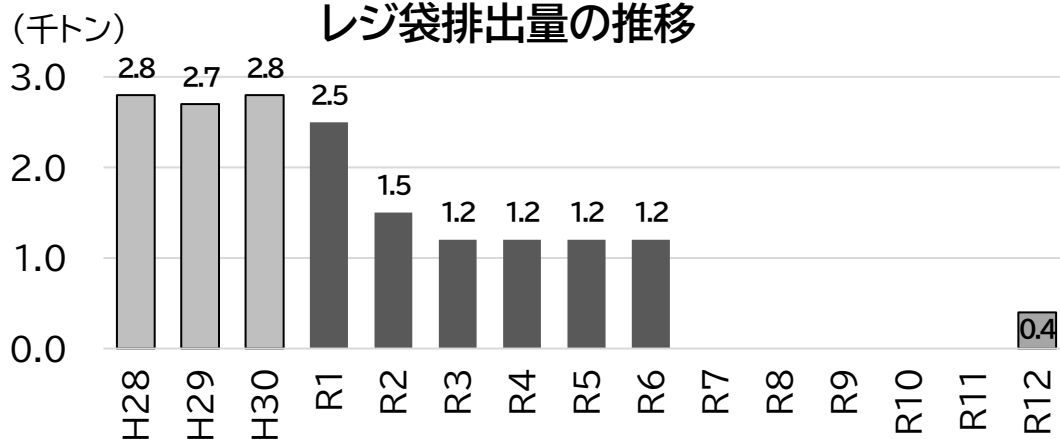
家庭ごみ中のプラスチック類の内訳(R6)



プラスチック削減に向けた目標設定

レジ袋使用量(家庭)／ペットボトル排出量(家庭) ➡ 現状維持

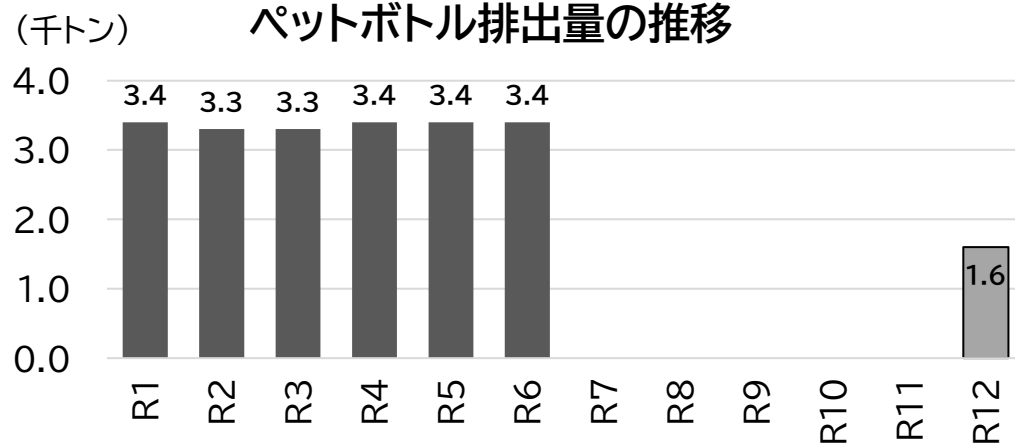
レジ袋排出量の推移



- R2年度のレジ袋有料化で大きく減少したものの、その後は横ばい傾向
- レジ袋使用量のうち、8割以上がごみ捨て用に使用されたものである。

市民1人 当たり(枚)	240	230	240	220	130	110	110	110	110						35
----------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	--	--	--	--	--	----

ペットボトル排出量の推移

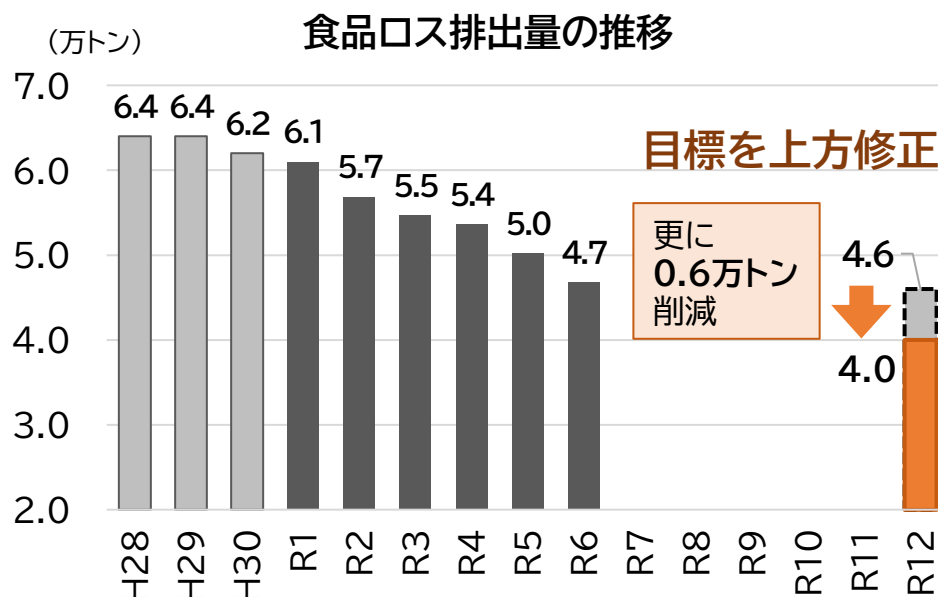


- 全国の飲料販売において、ペットボトルの割合及び販売量が増加傾向
- R4年度から資源ごみとして収集・中間処理したペットボトルを、再びペットボトルとして再利用する「ボトルtoボトルリサイクル事業」を開始
- 店頭回収も含めた分別実施率は、概ね90%であり、高い値となっている

市民1人 当たり(本)	90	90	90	90	90	90						45
分別実施率 (%)	84	88	90	89	90	90※						—

※ R5の店頭回収量を用いた速報値

目標達成済又は目標達成間近の指標の上方修正 食品ロス排出量



■ 合計量は毎年減少し、R6年度は4.7万トンとR12年度目標4.6万トンまでは残り約0.1万トン

■ 目標達成間近であるため、**目標値を4.0万トンに上方修正**
(R6値から更に△15%、ピーク時H12値から△58%(国目標※を上回る水準))

※ 家庭系：H12年度比でR12年度までに△50%
(第五次循環型社会形成推進基本計画)
事業系：H12年度比でR12年度までに△60%
(食品循環資源の再生利用等の促進に関する基本方針)

	H12 【ピーク】	R1 【基準】	R2	R3	R4	R5	R6	R12 【旧目標】	R12 【新目標】
食品ロス排出量	9.6万ト	6.1万ト	5.7万ト	5.5万ト	5.4万ト	5.0万ト	4.7万ト	4.6万ト	4.0万ト
うち家庭系	4.0万ト	2.5万ト	2.6万ト	2.4万ト	2.6万ト	2.2万ト	2.1万ト	2.0万ト	1.8万ト
うち事業系	5.6万ト	3.6万ト	3.1万ト	(3.1万ト)	2.8万ト	(2.8万ト)	2.6万ト	2.6万ト	2.2万ト

目標達成済又は目標達成間近の指標の上方修正

ごみ量関係指標の上方修正の考え方

ごみ量関係指標(市受入量、ごみ焼却量、市最終処分量)については、目標達成済又は目標達成
目前であるため、目標を上方修正する。

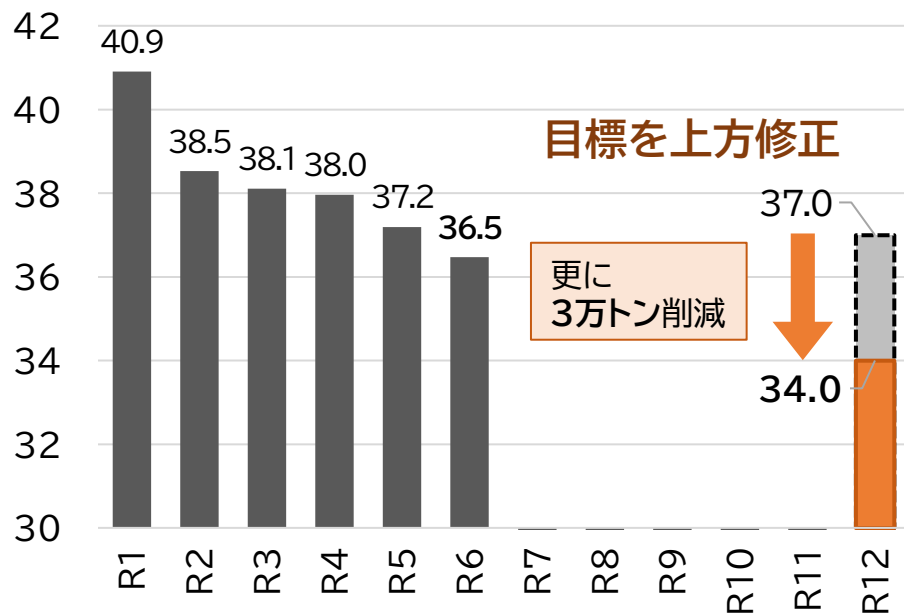
目標の上方修正の考え方

R6(2024)年度実績をもとに、R12(2030)年度までの社会変化に加えて、プランの
各個別指標の目標達成した場合のごみ量を積算。

	施策／影響要素	関連目標/見通し	市受入量の削減量	ごみ焼却量の削減量
社会 変化	人口減少	【家】 2.55万人減少	△0.4万トン	△0.4万トン
	ペーパーレス化	【家・事】 15.6%減少	△0.2万トン	△0.2万トン
主な 施策	使い捨てプラ削減	【家】 R6比10%減	△0.3万トン	△0.3万トン
	プラスチック分別推進	【家】 分別実施率60%	—	△0.5万トン
	食品ロス対策推進	【家・事】 食品ロス排出量4.0万トン	△0.7万トン	△0.7万トン
	事業系食品リサイクルの推進	【事】 食品リサイクル率36%	△0.6万トン	△0.6万トン
	民間回収の促進	【家・事】 再生利用率39%	△0.4万トン	△0.4万トン
合計			△2.6万トン	△3.1万トン

目標達成済又は目標達成間近の指標の上方修正 ごみ量(市受入量)

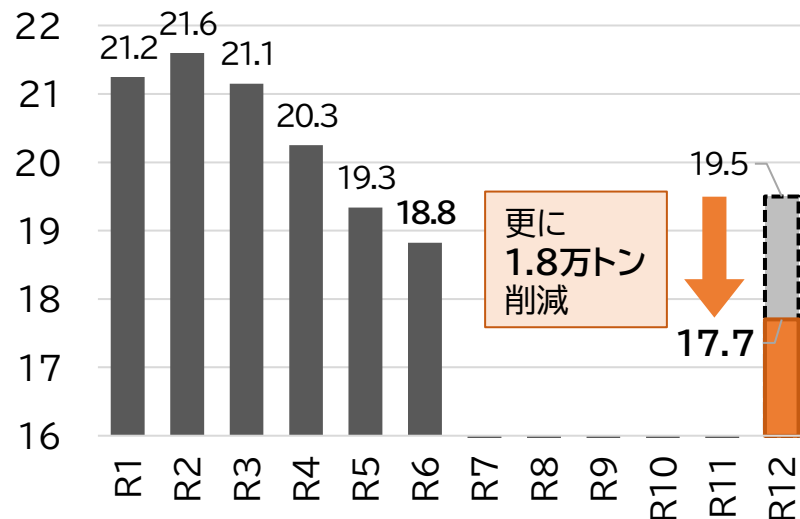
(万トン) 市受入量の推移



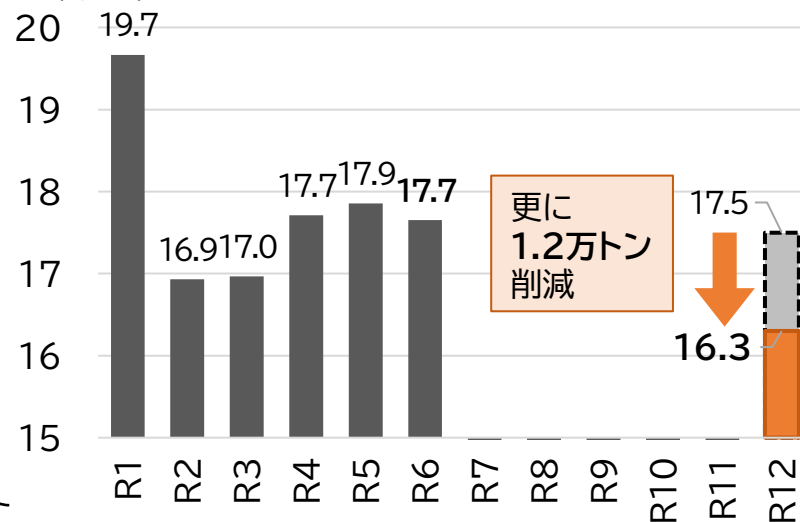
(内訳)

- R6年度に目標を6年前倒しで達成
- 個別指標を達成した場合のごみ量を基に上方修正

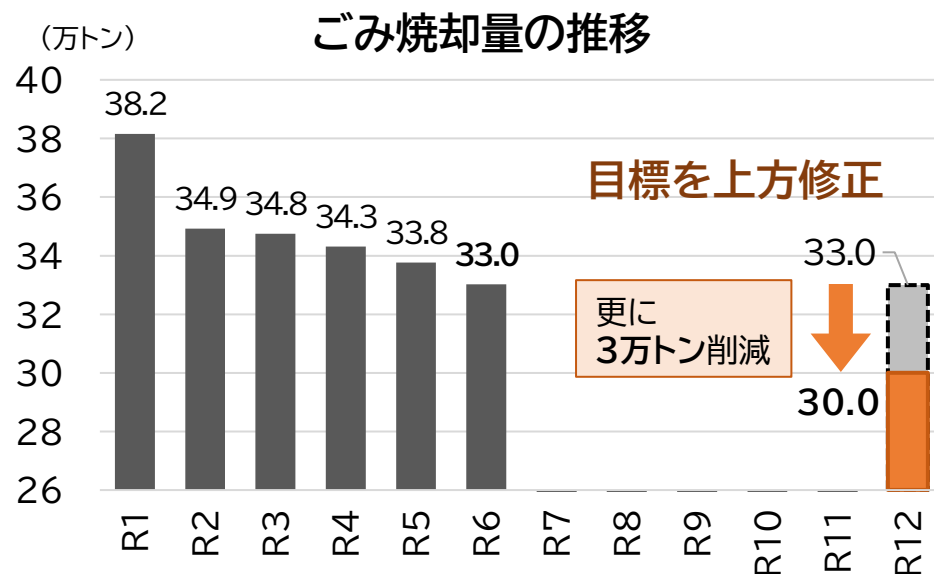
(万トン) 家庭ごみ量の推移



(万トン) 事業ごみ量の推移

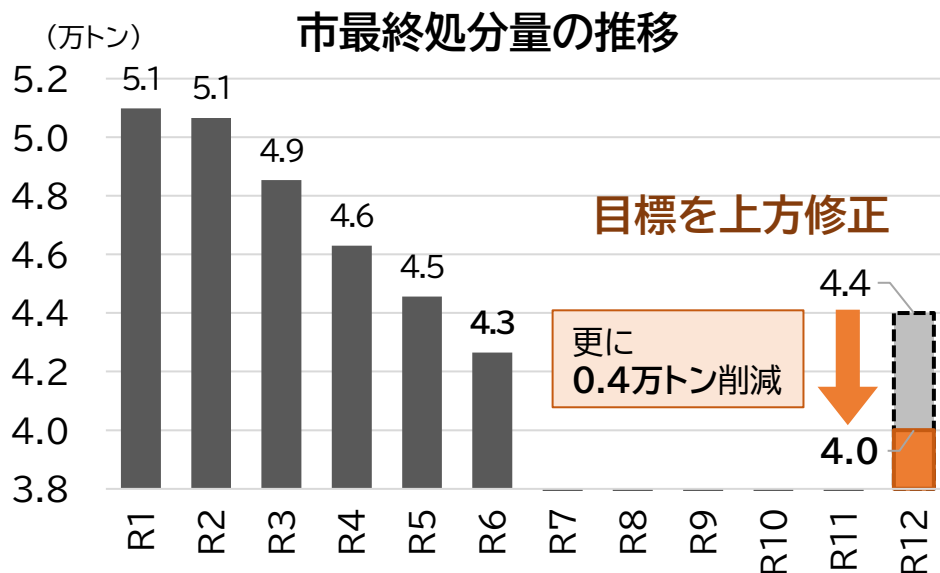


目標達成済又は目標達成間近の指標の上方修正 ごみ処理量



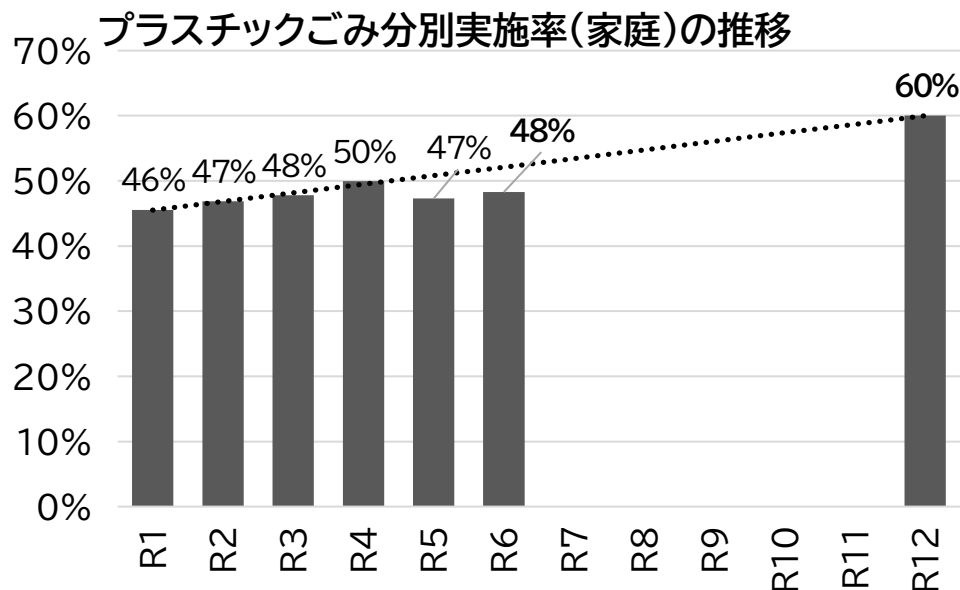
- R6年度は目標値である33万トンまであと282トンであり、達成目前
- 個別指標を達成した場合のごみ量を基に上方修正
- R12年度30万トンは、1人1日当たり582グラムで、国目標※の580グラムを概ね満たす水準

※ 第五次循環型社会形成推進基本計画



- R6年度に目標を6年前倒しで達成
- 個別指標を達成した場合のごみ量を基に上方修正

プラスチックごみ分別実施率(家庭)



- 分別実施率は増加傾向
- R6年度はプラ容器包装の分別実施率は上昇したが、プラ製品の分別実施率は低下した。
(～R4までの算定対象分では53%)
- R12年度目標まで残り12ポイント

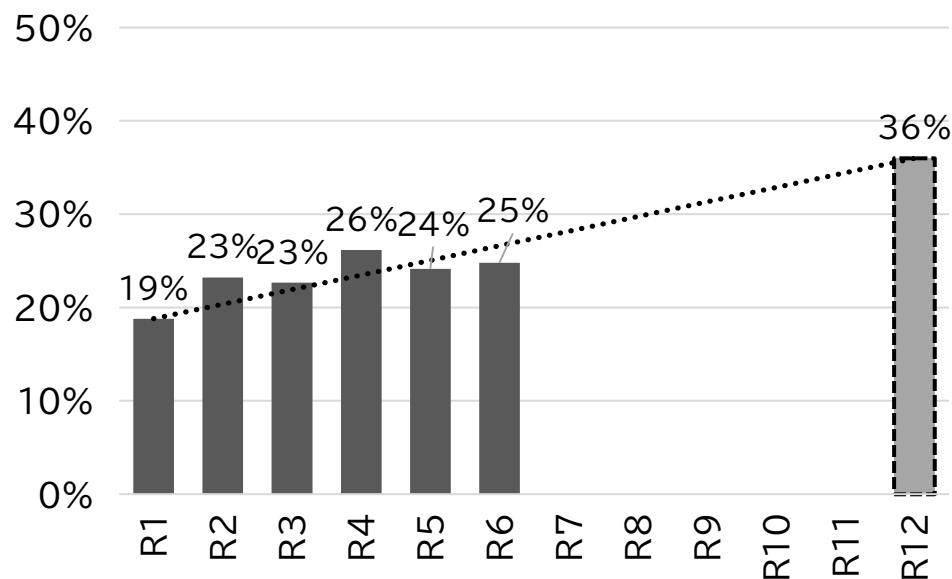
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R12
プラスチックごみ分別実施率(家庭)	46%	47%	48%	50%	47%	48%※	60%
ペットボトル分別実施率	84%	88%	90%	89%	90%	90%※	—
プラスチック容器包装分別実施率	39%	40%	41%	43%	44%	46%※	—
プラスチック製品分別実施率 (R4年度までは算定対象外)	—	—	—	—	23%	21%※	—

※ R5の店頭回収量を用いた速報値

$$\text{プラスチックごみ分別実施率} = \frac{\text{分別対象プラスチック類の引渡数量及び店頭回収量}}{\text{市収集ごみ中の分別対象プラスチック類及び店頭回収の総量}}$$

食品廃棄物リサイクル率(事業)

食品廃棄物リサイクル率(事業)の推移

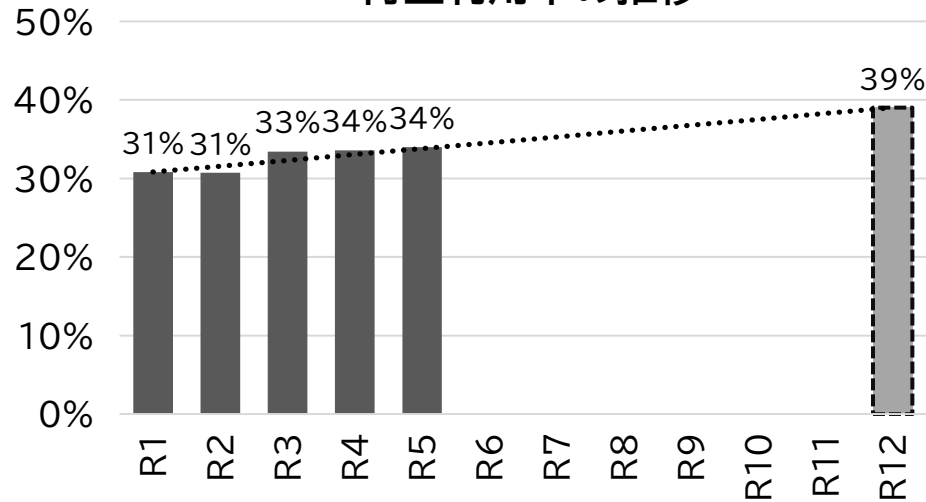


- R6年度の食品廃棄物リサイクル率は前年から1ポイント上昇し、25%
- 民間での食品リサイクル量は横ばい傾向
- R12年度目標まで残り11ポイント

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R12
食品廃棄物リサイクル率(事業) (①÷②)	19%	23%	23%	26%	24%	25%	36%
①食品廃棄物リサイクル量(事業)	1.4万ト	1.3万ト	1.3万ト	1.5万ト	1.4万ト	1.4万ト	—
民間施設	1.1万ト	0.9万ト	1.0万ト	1.0万ト	1.0万ト	1.0万ト	—
市施設(バイオガス化施設)	0.2万ト	0.4万ト	0.4万ト	0.5万ト	0.4万ト	0.4万ト	—
②食品廃棄物排出量(事業)	7.2万ト	5.8万ト	5.9万ト	5.6万ト	5.7万ト	5.7万ト	—

目標の現状維持の指標 再生利用率

再生利用率の推移

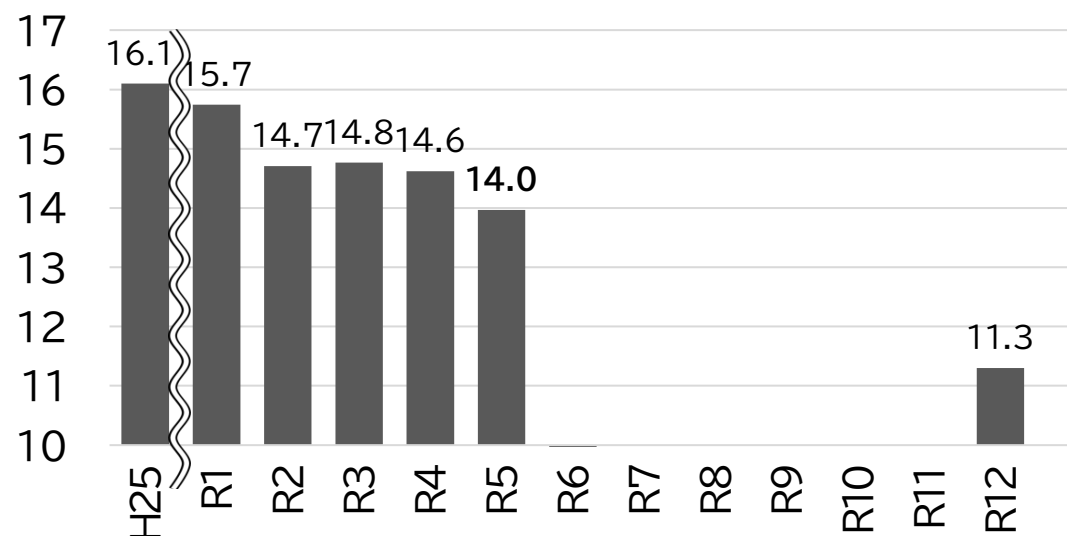


- 再生利用率はわずかに増加傾向
- R5年度は民間リサイクル量のうち、家庭系が0.3万トン減少した一方で、事業系は持込ごみ搬入手数料改定によって、せん定枝の民間リサイクル施設への搬入が進んだことなどにより、0.3万トン増加
- R12年度目標まで残り5ポイント

	R1	R2	R3	R4	R5	R12
再生利用率(①÷②)	31%	31%	33%	34%	34%	39%
①再資源化量	17.2万ト	15.9万ト	17.8万ト	17.7万ト	17.8万ト	—
市資源化量 (定期収集、拠点回収、バイオガス化等)	2.5万ト	3.0万ト	3.0万ト	3.2万ト	3.2万ト	—
民間リサイクル量(家庭系) (コミュニティ回収、店頭回収、古紙回収等)	3.5万ト	3.1万ト	2.9万ト	2.6万ト	2.3万ト	—
民間リサイクル量(事業系) (木質ごみ、食品廃棄物、古紙、缶びんペット等)	11.1万ト	9.8万ト	11.9万ト	11.9万ト	12.2万ト	—
②総排出量	55.7万ト	51.6万ト	53.2万ト	52.8万ト	52.2万ト	—

廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量

(万トン-CO₂) 廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量の推移

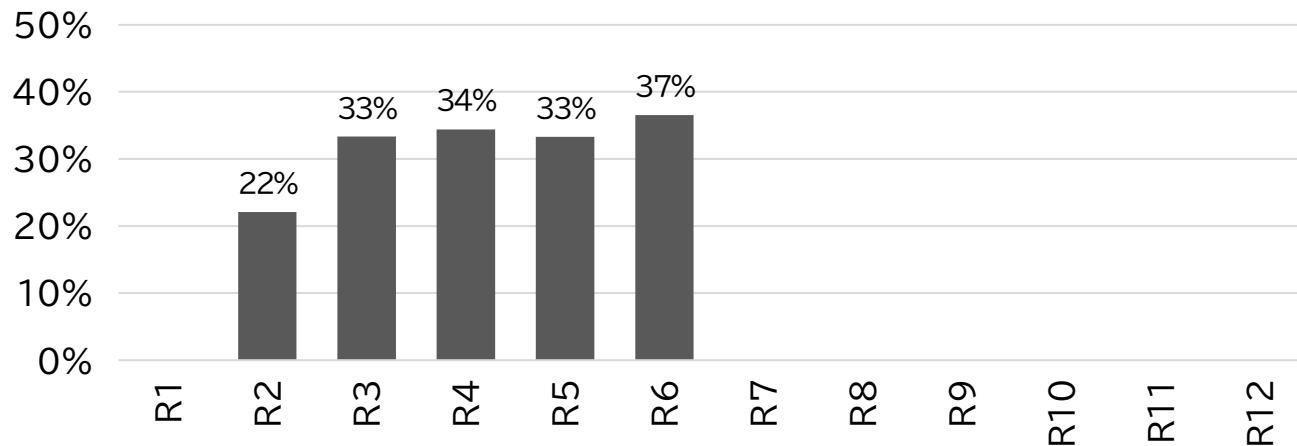


- 排出量の8割がプラの焼却に由来しており、プラの2Rと分別・リサイクルの影響を大きく受ける指標
- R5年度は14.0万トン-CO₂で、R4年度から0.6万トン-CO₂減少
- R12年度目標11.3万トン-CO₂までは残り2.7万トン-CO₂

	H12	H25 【基準】	R1	R2	R3	R4	R5	R12
廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量(①+②)	28.2万トン	16.1万トン	15.7万トン	14.7万トン	14.8万トン	14.6万トン	14.0万トン	11.3万トン
①ごみ焼却由来	27.7万トン	15.4万トン	14.9万トン	13.9万トン	14.1万トン	14.1万トン	13.5万トン	—
プラ由来のCO ₂	23.5万トン	12.3万トン	12.1万トン	11.3万トン	11.6万トン	11.4万トン	10.8万トン	—
合成繊維由来のCO ₂	2.9万トン	2.3万トン	2.2万トン	2.1万トン	1.9万トン	2.2万トン	2.1万トン	—
全体由来のCH ₄ 、N ₂ O	1.3万トン	0.8万トン	0.7万トン	0.6万トン	0.6万トン	0.6万トン	0.6万トン	—
② 施設・車両等のエネルギー消費由来	0.5万トン	0.7万トン	0.9万トン	0.8万トン	0.7万トン	0.5万トン	0.5万トン	—

バイオプラスチック製容器包装排出割合 ➡ モニタリング継続

バイオマスプラ製容器包装(レジ袋)
排出割合の推移



- リニューアルに関する目標として、バイオマスプラの使用有無が判別しやすいレジ袋を対象として評価している
- R6年は前年から4ポイント、モニタリング開始時のR2年度から15ポイント増加し、37%
- ごみ捨て用に購入された手提げポリ袋については、バイオマス素材であっても袋ごとに記載がないため、実際は上記よりもバイオマスプラ製レジ袋の排出割合が高い可能性がある
- 指標の把握に課題があることから、目標値は設定せず、引き続き、同指標のモニタリングを継続することとする

【参考】事業系も含めた、使い捨てプラスチック排出量

使い捨てプラスチック排出量の推移

